

<金標準、28日以降の「知ったら仕舞い」の円高に備える・・・>



(出所：オアシス)

26日にFOMCを控える中で小売売上高、鉱工業生産が事前予想を下回る結果となり、景気抑制を示した事から、7月の0.25%を織り込みながら利上げ停止観測が高まりを見せるとNY金の上昇に合わせて金標準先物も8800円を回復している。

特にインドで開催されたG20・財務相・中央銀行総裁会議を終えた記者会見で植田日銀総裁は「インフレ率2%の前提が変わらない限り全体のストーリーは不変だ」と発言するなど円安の動きを見せている。しかし日本の消費者物価指数(生鮮食品を除くコアCPI)は前年同月比3.3%上昇と、前月の3.2%上昇から伸びが拡大し、YCCの修正が議論されるとの観測が高まりを見せていたが、日銀関係者が「YCC政策の副作用に緊急に対応する必要性は乏しいとみている」との発言を受け141.86円まで円安が進み、金標準先物は8945円まで上昇している。しかし28日日銀の会合以降の為替市場の巻き戻しには注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが上昇し、シグナルも切り上げるなどゴールデンクロスを見せている。RCIは短期が上昇し、長期も上昇するなどオシレーターは強気維持を示している。ただ日足と10日移動平均線の乖離が拡大しており、目先の8800円に向けた調整には注意した方が良いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,990,000 円(2023 年 7 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 7 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>